

七 六

房官臣大 課局務主		決定指定		永久 保存	
了結	領受	提出	領受	號番	件名
昭和八年九月十五日	昭和八年八月五日	昭和八年八月五日	昭和八年七月二十五日	軍務第六〇號	九三式重爆撃機基準制式制定ニ關スル件
(裁決)行決 覽回後		帶 連		局長	主務局長
局長	局長	局長	局長	局長	局長
長課	長課	長課	長課	主務課長	高級副官
長課	長課	長課	長課	主務課員	主務副官 官房御用掛
長課	長課	長課	長課	書記官	審判者
		起元應(課)名		陸軍勅令第一〇二四號	
		回覽課名後		新	
		陸軍勅令第一〇二四號		陸軍勅令第一〇二四號	

陸軍

兵部

陸軍密器

照會

大臣より参謀總長へ

別紙紙秘第三六二號陸軍軍械部

長上申ニ基キ九二式重爆撃機ヲ準制

式トシテ制定致度ニ付意見承知致度

別冊審査報告一部相添へ照會ス

追テ制式制定後ニ於ケル秘密保持ニ

関シテハ左記ニ據ルモノト承知相成度

左記

一 本機ノ性能、裝備ヲ製作及教育ニ

関スル萬般ノ處置ハ之ヲ極秘トシ関

係當事者以外ニ情報ノ漏洩ヲ防止スル
事

ニ本機見學ニ關シテハ昭和六年十月十二日
附陸普第回一五第ニ據ル

密

陸密第三八五號

昭和八年七月廿六日

陸密第...

通牒

副官ヲ陸軍航空部部長ノ

七月二十四日附航政第三六二第上申ノ通
準制式トシテ制定セラルルニキリ該構造要
領十部ヲ調製相成度

0634

江戸書物館
蔵書印

畠
林
澤

追テ本構造要領ニ軍事機密ト取扱ト
ニ所要時期迄各部隊ニ配賦トス貴部ニ
於テ保管相成度

陸密第三九八號

昭和八年八月二日

件名 九一式重爆撃機ニ對スル機密保持ニ關スル件

陸密出稿

通 達

次官ヲ參謀次長、教育總監部少部長

陸軍新造部部長、陸軍技術部部長

陸軍兵器部部長、陸軍造兵廠長官

陸軍築城部部長、陸軍司令部

東京板橋區司令部參謀長、各軍師團

参謀長
 八月二日附陸密第三九七號
 第一ヲ以テ特殊試
 驗機ヲ九二式重爆撃機ト稱シ准テ制式ニ
 制定セラルル而シテ制定後ニ於テ本機ノ秘密
 保持ニ関シ左記ニ據ルモノト承知相成
 度

左記陸密第三九七號 昭和八年八月二日

(前掲) 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍

2890

上計空欄ニ
自降書キ
ノ記
入
組
空
欄
印
本
宛

説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

3年 8月 8日

主務者又は

撮影立会者 加部東保夫



アジア歴史資料センター

航秘第三六一號

特殊試験機ヲ準制式トシテ制定セラレ度件上申

昭和八年七月二十四日

陸軍航空本部長

杉山

元

陸軍大臣 荒木貞夫 殿

昭和三年二月二十一日陸密第五三號達ニ基ク特殊試験機ヲ九二式重
爆撃機トシテ準制式ニ制定セラレ度別冊審査報告相添へ上申ス（別
冊四部添付）

(急務本館より別冊一冊添付ナシ)

陸軍

航秘第三六二號

特殊試験機ヲ準制式トシテ制定セラレ度件上申

昭和八年七月二十四日

陸軍航空本部長 杉山

陸軍大臣 荒木貞夫 殿

昭和三年二月二十一日陸密第五三號達ニ基ク特殊試験機ヲ九二式重
爆撃機トシテ準制式ニ制定セラレ度別冊審査報告相添へ上申ス(別
冊四部添付)

陸軍航空本部
印

8.7.25
60

領省
八二四

8.7.25

陸

陸

軍

0640

昭和二十一年六月二十九日綴秘分三二二二号ノ別冊

特殊試験機械実査報告(一連番号附)保管区分

欠部第十号 番号不明
秘分二号 番号不明
秘分三号 番号不明
秘分四号 番号不明

昭和二十一年六月二十九日陸軍部三六五号ニ依り

秘第貳號

特殊試驗機審査報告

昭和八年
航空本
部

紙表數 七枚
附表數 一枚
附圖數 一枚

特殊試験機審査報告

第一一級成績

本機ハ概不其ノ設計一般基礎事項ノ要求ヲ充足シ遠距離重
 深撃機トシテ十分實用ニ適スルモノト認ム
 但シ細部ニ関シテハ更ニ其研究ヲ進メ本機ノ性能ノ改善ヲ
 圖ルヲ要ス

第一一級審査成績ノ概要

一 飛行性能

上昇飛行性能	水平飛行性能	區分			飛行揚重		
		地上ニ於ケル最大水平速度	高度一〇〇〇米ニ於ケル最大水平速度	高度三〇〇〇米ニ於ケル最大水平速度	二五噸(全備)	二二噸(直投前)	二〇噸(直投後)
實用上昇限度	昇時間	一九六〇	一九二〇	一九七〇	二〇五秒	一五五秒	一一分三〇秒

離着陸性能	飛 績 距 離	最之経時的ノ巡航状態ニ於テ	約ニ五〇〇ノ料
離陸滑走距離(三五噸)			四一七米
着陸滑走距離(二七噸)			三二〇米

ニ 操縦性能
本機ノ操縦性能ハ安定及從從性共ニ其ノ成績概ニ良好ナリ

三 推進機関

(一) 本機ノ推進機関一般ノ成績ハ良好ナリ
(二) 所要ノ改善ヲ施シタル本機ノ成績ハ良好ナル成績ヲ以テ

一〇〇時間耐久試験ニ合格セリ
(三) 人口ペラハ其ノ構造悉度適當ニシテ有害ナル振動ナシ

四 構造強度
(一) 機体ノ構造ハ適當ニシテ各部良ク均齊ヲ保ケ其ノ強度

十分ナリ
(二) 機体ノ製作材料ハ將來統一國産品ヲ使用シ得

五 取扱耐久及加修性
(一) 取扱耐久及加修性

(一) 本機ハ組立調整分解點檢手入容易ナリ

機体ノ耐久性ニ関シテハ尙相當長期ニ亘ル試験ヲ要ス
ルニ構造強度ヲ考察シ金屬機トシテ相當ノ耐久性ヲ有
スルニト認ム

(三) 加修

機体ノ加修ハ特ニ困難ナラス概ネ容易ニ實施シ得

六、裝 備

(一) 本機ノ裝備ハ本機設計要求條件ヲ充足シ其ノ機体トノ

調和良好ニシテ取付確實且點檢取扱容易ニシテ成績概

不良好ナリ

(二) 細部ニ関スル成績左ノ如シ

1) 爆撃裝置

爆撃ニ関スル諸裝備概ネ適當ニシテ各種懸梁ノ組合
セニヨリ爆彈搭載効率良好ナリ

(二) 射撃裝置

銃砲ノ配置概ネ適當ニシテ機全周ニ對スル警戒及火
力ノ集散ニ便ナリ但シ旋回銃架重下塔等ニ関シテハ

所要ノ改善ヲ加フルト共ニ火器ノ用法及自衛武裝ノ
増強ニ関シテ研究ヲ要ス

(3) 寫真装置

本機ノ寫真装置ハ適當ニシテ取扱容易ナリ

(4) 機上設備

本機ノ機上設備ハ概ニ良好ニシテ取付調整及使用容
易ナリ

(5) 計測器裝備

本機ノ計測器設置ハ適當ニシテ装着法亦良好ナリ

(6) 燃料槽配置

本機ノ燃料槽配置ハ概ニ良好ナリ

七 視界及射界

ハ 視界

各搭乗者ノ視界概ニ良好ニシテ殊ニ爆撃視界ニ於テ然

ハ 射界

右銃砲ノ射界概ニ良好ナリ

第三、構造、概要

一、主要諸元

(一) 本機、主要諸元次、如シ
型式、單葉中翼片持式
主要寸法

全長

全高

全中

主翼取付角

上反角

後退角

轆間距離

(二) 面積

主翼(補助翼共)

補助翼

水平安定板

昇降舵

垂直安定板

二、三、二米

七、〇米

四、四、〇米

零度

六度至五分

十二度四十分

七、七、〇米

二九四、 平方米

一六、四、〇 平方米

二八、七 平方米

一五、〇八 平方米

七、五、二 平方米

四重
方向舵
自重

六一七 平方米

約一五〇〇〇 匹

標準搭載量

約一〇〇〇〇 匹

(五) 全備重量
使用發動機

約二五〇〇〇 匹

名稱
型式

型式一型八〇〇馬力
V型水冷式

正規回轉數

最大回轉數

減速比

馬力

地上最大馬力

每分一九五〇
約二分一
八五〇馬力
八〇〇馬力

針	彈	彈藥類	裝備品	燃料油	乘員
一〇〇〇〇 匹	二〇〇〇 匹	四〇〇 匹	一〇一〇 匹	五八〇 匹	七七〇 匹

(六) フロペラ

木製 = シテニ本ヲ組立ツル四羽式トス
中径
ピッケ
四、五〇〇米
五、五〇〇米

二. 構造ノ概要(附圖参照)

(一) 一般ノ構造

本機ハ片持中翼式單葉機ニシテ全金屬製ナリ

發動機及燃料槽ハ翼内ニ收容セラル

胴体ハ框及縱梁式トス。胴体及翼外被ハ波形ゲユラル

ニシテ鏡ニ依リ被覆セラル

胴体ニハ前方ヨリ機閉統爆撃及流法操縱司令(副)無線

機閉統ノ各席ヲ收容ス

「翼内ニハ操縱席ノ左右ニ司令(主)翼真ノ各席ヲ有シ尚

左右外方發動機ノ後方翼ノ後縁ニ接シ張出鏡座及無下

鏡座ヲ有ス

水平尾翼ハ上下ニ二葉ヲ有シ垂直尾翼ハ三個ニ分カレ

ヤリ

降着装置中脚ハ垂直桿ニ緩持ゴハ組ヲ有シ車輪ハ前後

一個計四個ヲ有ス尾部ニハ左右ニ回轉シ得ル尾輪ヲ有ス

三、爆撃裝備中懸梁一ハ六種類アリテ爆彈ノ種類ニ依リ交換塔載可能負數及重量附表ノ如シ

四、射撃裝備

八九式旋回機關銃(双聯)ニ挺(前方、左右張出銃座)

單銃身機關銃

ニ挺(左右垂下銃座)及ニロ

銃機關砲(同砲座)ヲ装着シ各銃身ニ實包一、〇、〇、〇發
計六、〇、〇、〇發及砲彈三、〇、〇、〇發塔載ス

第四、審査經過ノ概要

一、昭和五年二月廿一日陸密庚五三號ニヨリ大臣ヨリ審査命
令ヲ受ケタリ

二、本部長ハ三菱航空機株式會社ヲ利用シ監督取ヲ同社ニ派
遣シ其指導下一本機ノ設計試作ヲ行フコトニ決シ一般計
畫ヲ決定シ昭和二年八月七日大臣ノ認可ヲ受ケ實施ニ着
手セリ

三、監督取ノ調査研究ノ結果ニ從ヒ昭和四年十二月本機設計
一般基礎事項ヲ確定シ之ヲ準據トシ爾後ニ於ケル本機

四


設計試作の遂行に昭和五年三月試作を開始し昭和六年八月
 第一機ノ試作ヲ完了セリ
 昭和六年十月二十六日各務ヶ原飛行場ニ於テ第一回試飛行
 ヲ行ヒ同年十二月ヨリ昭和七年五月迄立川技術部ニ於テ基
 本審査ヲ爾後引續キ濱松飛行場ニ聯隊ニ於テ實用試験中ニ
 シテ基本審査及實用試験ヲ綜合シ本報告第一卷ニ記載ス
 ル如キ成績ヲ得タリ

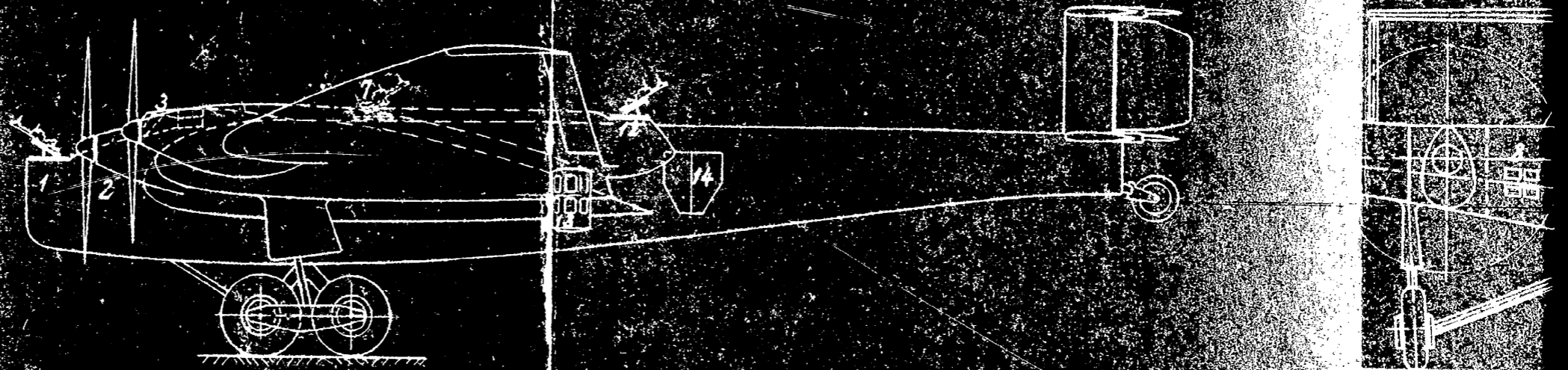
特殊試験機各種爆弾搭載可能員数及重量表

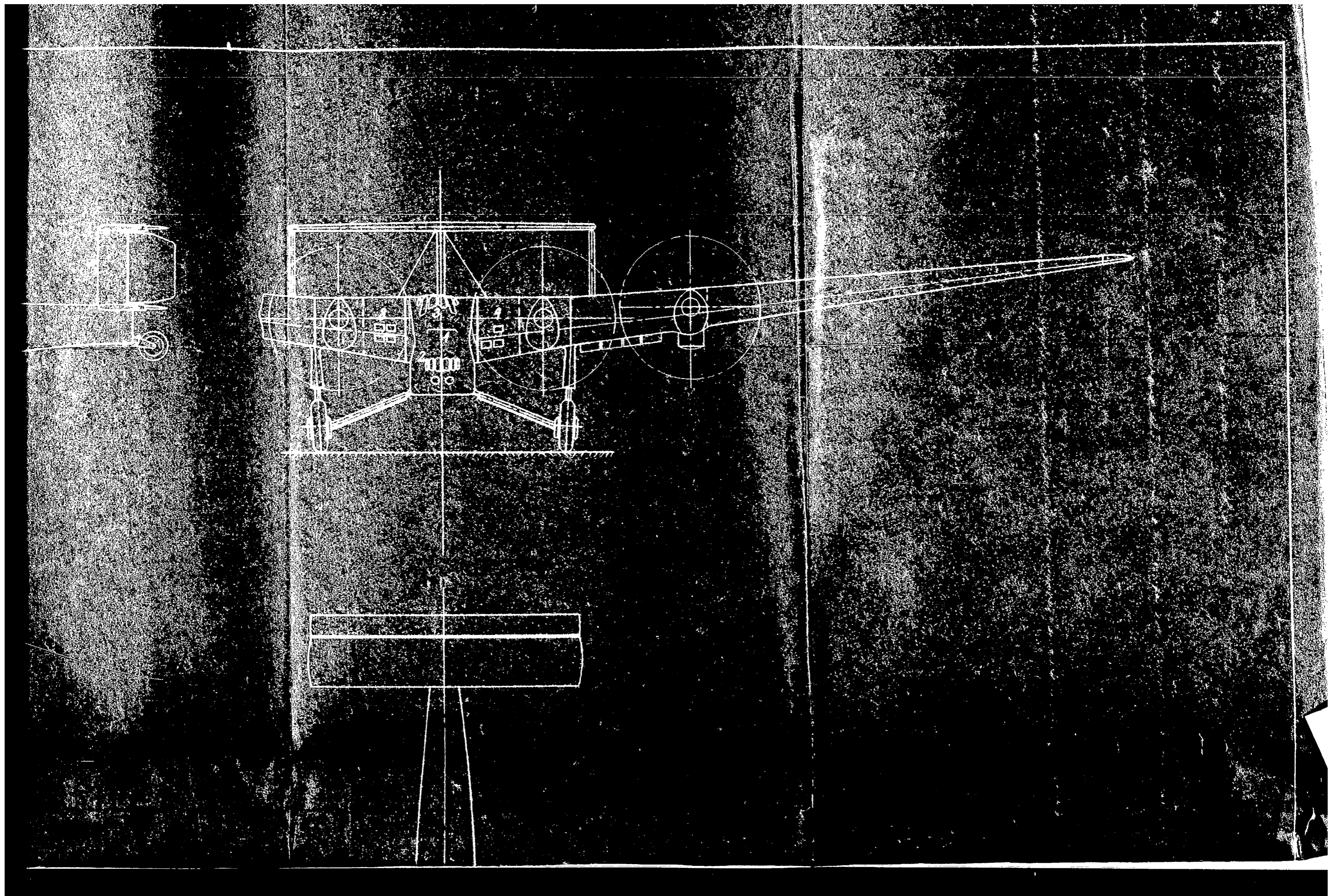
弾種	50 瓦爆弾		100 瓦爆弾		200 瓦破甲弾		250 瓦爆弾		500 瓦爆弾		備考	
50 瓦爆弾	胴体下		胴体下	100x8=800	胴体下	200x4=800	胴体下	250x4=1,000	胴体下	500x4=2,000	1. 爆弾標準搭載量ハ 200瓦以下但シ本表ノ組 合ニ於テ2,000瓦以上 ノ爆弾ヲ搭載スルハ 増加重量ノ慮ル燃料 ヲ減少スルヲ要ス 2. 100瓦及50瓦ノ組合 セテテハ總計44条 トナルヲ以テ50瓦ヲ 8条以下2条宛同時 投下スルハ100瓦又ハ 50瓦1何レカ条ヲ 減スルモノトス (標準機ハ40条トス) 3. 100瓦及50瓦ハ12 年式及同型何レカ 同一位置ニ搭載シ得 4. 200瓦破甲ハ250瓦 1位置ニ100瓦破甲 1(100瓦)位置ニ搭 載シ得	
	翼下	50x36=1,800	翼下	50x36=1,800	翼下	50x36=1,800	翼下	50x36=1,800	翼下	50x36=1,800		
	計	1,800	計	2,600	計	2,600	計	2,800	計	3,800		
100 瓦爆弾			胴体下	100x8=800	胴体下	200x4=800	胴体下	250x4=1,000	胴体下	500x4=2,000		
			翼下	100x36=3,600	翼下	100x36=3,600	翼下	100x36=3,600	翼下	100x36=3,600		
			計	3,600	計	3,600	計	3,800	計	4,800		
					胴体下	100x4=800	胴体下	100x8=800				
					翼下	200x6=2,400	翼下	250x12=3,000				
				計	3,200	計	3,800					
200 瓦破甲弾					胴体下	200x4=800	胴体下	250x4=1,000	胴体下	500x4=2,000		
					翼下	200x12=2,400	翼下	200x12=2,400	翼下	200x12=2,400		
					計	3,200	計	3,400	計	4,400		
							胴体下	200x4=800				
						翼下	250x12=3,000					
						計	3,800					
250 瓦爆弾							胴体下	250x4=1,000	胴体下	500x4=2,000		
							翼下	250x12=3,000	翼下	250x12=3,000		
							計	4,000	計	5,000		
500 瓦爆弾								胴体下	500x4=2,000			
								翼下	500x4=2,000			
								計	4,000			

昭和八年九月二日 陸軍第八四研究所 差使

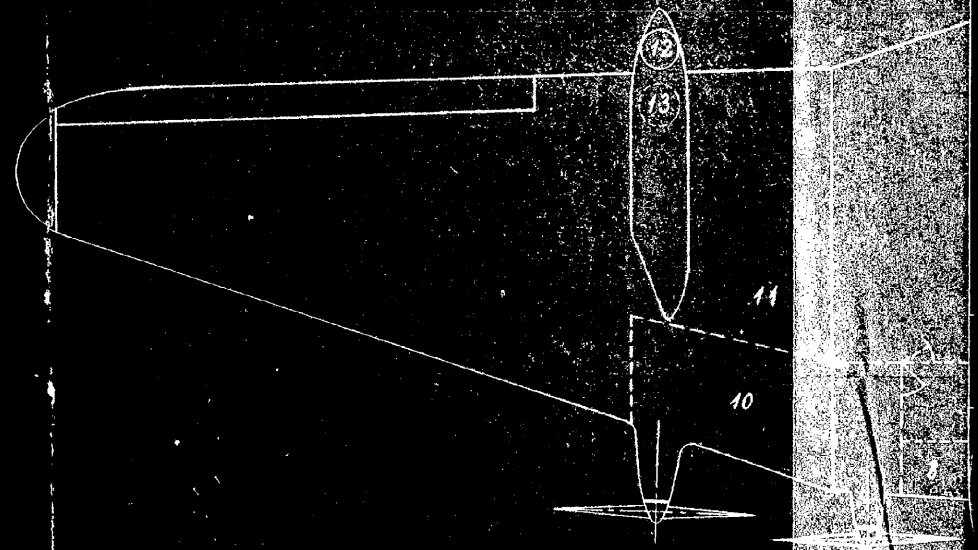
分割撮影ターゲット

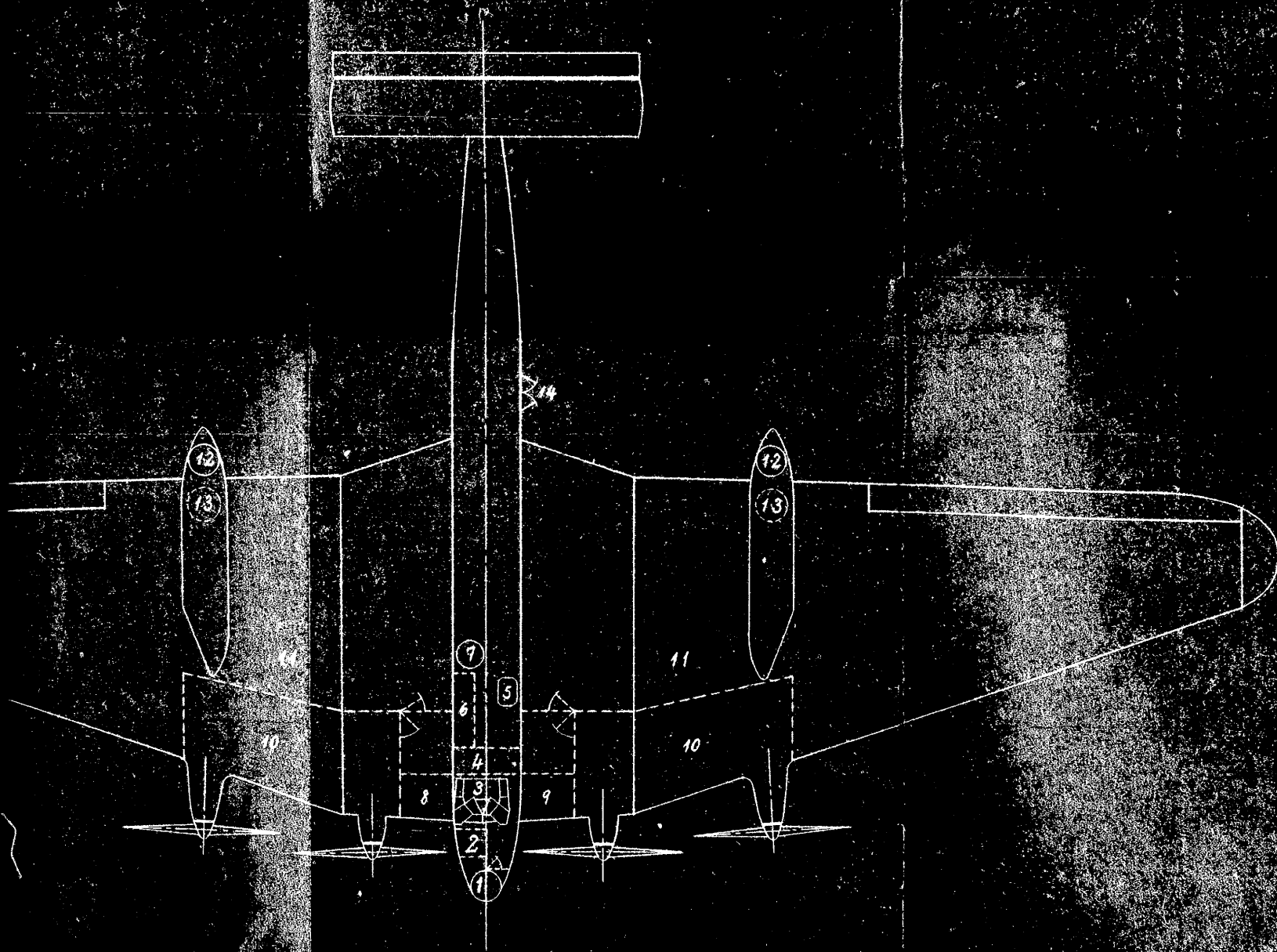
分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判以上カメラ
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3 年 8 月 2 日</p> <p>主務者又は</p> <p>撮影立会者 加部東 保夫 </p>	





1 座法室
 2 銃航室 席席
 3 銃航室 子副席
 4 端警機 閉令線 座令真動
 5 前導機 閉令線 座令真動
 6 座法室
 7 座法室
 8 座法室
 9 座法室
 10 座法室
 11 座法室
 12 座法室
 13 座法室
 14 座法室





($\frac{1}{100}$)

9590



形

参謀本部

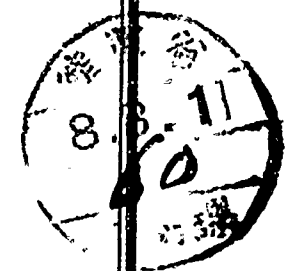
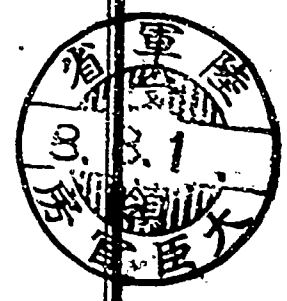
参謀本部 参密第四一四號第二

九二式重爆撃機準制式制定ニ關スル件回答

昭和八年七月卅一日 参謀總長 載 仁 親

陸軍大臣 荒 木 貞 殿

陸密第三八五號照會ニ係ル九二式重爆撃機準制式制定ノ件異存無之



陸軍

決裁案

方今世界ニ於ケル軍事航空進歩ノ趨勢
 ニ鑑ミ帝國陸軍ニ於テモ國內陸上根據地
 ヨリ船舶輸送ニ由ルコトナク直接主要作戰地
 ニ獨立飛行シ爆撃及偵察ニ任シ得ヘキ行動
 半徑大ナル起重爆撃機ノ設計並試作ニ今
 ヨリ着手スルヲ緊要ト認ムルヲ以テ別紙要
 領ニ據リ實施致度ニ付決裁相成度

片岡

超重爆撃機設計並試作要領

- 一、本機ノ設計並試作ハ陸軍航空本部ヲシテ實
施セシメノ完成後審査ノ上其結果ヲ覆申セシム
- 二、本機ニ要求スヘキ主ナル條件概ネ左ノ如シ
1. 行動半徑ハ一、〇〇〇料トス
- 但以上ノ外目標ノ上空ニ於ケル行動及豫備ノ
為五〇〇料以上ノ行動能力ヲ維持スルヲ要ス
2. 爆彈搭載量ハ前記行動半徑ノ場合ニ於
テ約二、〇〇〇料ヲ搭載シ得ルヲ要ス
3. 上昇限度ハ爆彈約二、〇〇〇料ヲ搭載シ行動

半径ノ先端ニ於テ高度約五、〇〇〇米ヲ保持シ	得ルヲ目途トス	自衛用ノ武装及其射界ハ充分ナラシメテ	護ヲ受クルコトナク獨立シテ行動シ得ルヲ立	前トス	晝夜ニ亘リ長時間飛行ヲ實施スル爲必要	ナル諸装備ヲ有シ特ニ照明器材及航法器	材ヲ完備スルヲ要ス	本機ハ爆撃任務ノ外偵察任務ニモ服シ得	ル如ク設備スルモノトシ之ニ關スル諸装備ハ	概テ偵察機ニ準シ無線電信機ハ特ニ遠距
-----------------------	---------	--------------------	----------------------	-----	--------------------	--------------------	-----------	--------------------	----------------------	--------------------

<p>離用ノモノヲ装備スルモノトス</p>	<p>ク本機ハ成ルヘク常設飛行場ニ於テ離着</p>	<p>陸ヲナシ得ルモノタルヲ要ス</p>	<p>ル本機ハ成ルヘク全金屬製トス</p>	<p>ル本機ニ装備スルキ弁動機ノ種類及馬力</p>	<p>数等ニ就テハ航空本部ノ研究ヲ待テ之</p>	<p>ヲ決定ス</p>	<p>三本機ノ設計ヲ試作ノ爲ニハ民間航空機製</p>	<p>造會社ヲ利用スルコトヲ得</p>	<p>四本機ノ設計ハ昭和三年度ヨリ着手シ概ネ</p>	<p>三々年ニ於テ試作ノ完成ヲ期スルモノトス</p>
-----------------------	---------------------------	----------------------	-----------------------	---------------------------	--------------------------	-------------	----------------------------	---------------------	----------------------------	----------------------------

機

五	試作機數ハ二機トス
六	本機ノ設計、試作及審査等ニ要スル兵器費 總額ハ約八拾萬圓トシ左ノ年割ニ據リ航空 本部ニ別途令達ス 但シ本總額中ニ糸動機及特種裝備器材 ニ要スル經費ヲ含マサルモノトス
	昭和三年度 拾萬圓
	同 四年度 參拾萬圓
	同 五年度 四拾萬圓
七	前項ノ兵器費ハ軍事費兵器及馬匹費工兵器 具費ヲ以テ昭和三年度乃至同五年度迄ニ更

<p>新スヘキ平時用飛行機中教育ニ比較的支障 少キモノ、更新数ヲ減シ之ヨリ捻出セシ經費 ヲ流用スルモノトス</p>

陸
軍

陸軍

辨外

超重煤整年稼之因るに新中記事事件

二月十日付の長古改号ノ新中ノ二十二人乗

超重煤整年稼減後施行ノ右勢原ニ於テ

施行ニ付之因るに記事ニルカ右ノ事ノ稼密ニ属

スルモノトシテ支那部長、是れ日方ハ恐惶ヲ來シ

リ

右記事ノ出所ニ就テ調査スルに如何哉

日新中記者團由嘉平印カ報誌航定外ハ

ノ記事ヲノ推測的ニ記載スルモノトシテ其弊ヲ

却テ於テ漏洩セリト認ム(カ)ト云下シ

決裁指定

永久 閣

房官臣大	課局務主	證認濟裁決		大臣	件番受
了結 大正 年 月 日 覽長	領受 大正 年 月 日 決行 後回 局	出提 大正 年 月 日 帶長	領受 大正 年 月 日 帶長	高級 副官	名
主務 局長		參事官		次官	名
主務 課長		主務 課長		高級 副官	名
主務 課員		主務 課員		高級 副官	名
者記筆案審		者記筆案審		高級 副官	名
者記筆案審		者記筆案審		高級 副官	名

連帶
署名

陸軍
統制課
主務
長

決行後回
覽署名

陸軍
3.2.20
午前
主務
陸軍
3.2.17
午後3時
統制課
陸軍
3.2.17
午後
統制課

超重爆撃機ノ研究ヲ審査スル件

兵器局器材課

陸軍航空本部

達

陸軍航空本部長

別紙要領ニ據リ超重爆撃機ニ関スル研究
茲審査ヲ行ヒ其結果ヲ覆申スヘシ

陸軍第五三號
四月廿日

別紙

招重爆撃機設計試作要領

一本機ハ國內陸上根據地ヨリ船舶輸送ニ由ルコト

ナク直接主要作戦地ニ獨立飛行シ爆撃及偵察

ニ任シ得ルモノニシテ之ニ要求スヘキ主要條件概

ネ左ノ如シ

一 行動半徑ハ一〇〇〇料トス

但シ以上ノ外目標ノ上空ニ於ケル行動及豫備

ノ爲五〇〇料以上ノ行動能力ヲ維持スルヲ要ス

二 爆彈搭載量ハ前記行動半徑ノ場合ニ於テ約

二〇〇噸ヲ搭載シ得ルヲ要ス

古六六六

<p>3. 上昇限度ハ爆彈約二、〇〇〇呎ヲ越シテ行動 半径ノ先端ニ於テ高度約五、〇〇〇米ノ保持シ 得ルヲ目途トス</p>	<p>4. 自衛用ノ武装及其射界ハ充分ナラシメ掩護 ヲ受クルコトナク獨立シテ行動シ得ルヲ立前ト ス</p>	<p>5. 晝夜ニ亘リ長時間飛行ヲ實施スル為必要ナル 諸裝備ヲ有シ特ニ照明器材及航法器材ヲ 完備スルヲ要ス</p>	<p>6. 本機ハ爆撃任務ノ外偵察任務ニモ服シ得ル 如ク設備スルモノトシ之ニ関スル諸裝備ハ概ネ</p>
--	---	---	--

陸軍

<p>偵察機ニ準シ無線電信機ハ特ニ遠距離 用ノモノヲ裝備スルモノトス</p>	<p>ク本機ハ成ルヘク常設飛行場ニ於テ離着陸 ヲナシ得ルモノタルヲ要ス</p>	<p>ル本機ハ成ルヘク全金屬製トス</p>	<p>ク本機ニ装着スヘキ弁動機ノ種類及馬力数 等ハ研究ヲ待チ之ヲ決定ス</p>	<p>ニ本機ノ設計並試作ノ爲民間航空機製造會 社ヲ利用スルコトヲ得</p>	<p>三本機ノ設計ハ昭和三年度ヨリ着手シ概ネ三ヶ 年ニ於テ試作ヲ完成シ審査ノ上遷クモ昭和</p>
--	---	-----------------------	---	---	--

才五頂
即秋の年分
十三日陸軍
三七四年
り計正

六年六月末日迄ニ関係書類ヲ添ハ其結果ヲ
覆申スルモノトス

四、試作機数ハ二機トス

五、本件ニ要スル兵器費總額ハ約八拾萬圓

概テ左ノ年割ニ據リ航空本部ニ別途令達ス

但シ本金額中ニハ弁動機及特種装備器材ニ

要スル經費ヲ含マス

昭和三年度

拾萬圓

昭和四年度

參拾萬圓

昭和五年度

五拾七萬圓

六、航空本部長ハ本要領ニ基キ更ニ細部ノ計畫ヲ

五拾七萬圓

五拾七萬圓

五拾七萬圓

五拾七萬圓

五拾七萬圓

五拾七萬圓

五拾七萬圓

1290

定メ實施前認可ヲ受クルモノトス

陸軍

決裁指定

房官臣大	了結	領受	提出	領受	主務局長 連帶局長 課長	審案筆記者
	大正 年 月 日	大正 年 三月 五日	大正 年 月 日	昭和 三年 二月 二十四日		
件名		超重爆撃機試作爲機密保持ノ関スル件				
番號		密第九五號				
受領		參謀本部				
大臣	次官	高級副官	主務副官	主務副官	主務副官	主務副官
參事官		主務課長				
主務局長		主務課長				
主務課長		主務課長				
主務課長		主務課長				

連帶局長
參事官
主務課長

決行
覽課名
3.2.28
第6
統制課

3.2.28
12

陸軍

通 牒

次官ヨリ参謀次長へ

首題ノ件ニ関シ別紙ノ通陸軍航空本部
部長ニ通牒セシニ付承知アリ度

通 牒

次官ヨリ陸軍航空本部長へ

本月二十一日陸密第五三號ヲ以テ研究茲審
査方達セラレタル超重爆撃機ノ機密保持ニ
関シテハ特ニ左記各項ニ據リ處置セラレ度

陸軍省
陸軍部
陸軍航空部

陸

軍

依命通牒ス

左記

一 超重爆撃機ハ爾後特殊試験機ト稱呼スルコト

二 該機ニ具備セシムヘキ性能ハ勿論設計試

作ニ関スル萬般ノ處置ハ之ヲ極秘トシ關

係當事者以外ニ情報ノ漏洩ヲ防止スルコト

三 本機ノ設計試作ニ任スル民間航空機製造

會社ニ對シテハ特ニ前各項ノ趣旨ヲ徹底セ

シムルコト

陸軍

八三

三月十五



陸密第 號

超重爆撃機試作爲機密保持ニ関スル件通牒

昭和三年 月 日 陸軍次官畑 英太郎

陸軍航空本部長井上 幾太郎殿

二月二十一日陸密第五三號ヲ以テ研究ヲ審査

方違セラレタル超重爆撃機ノ機密保持ニ関

シテハ特ニ左記各項ニ據リ處置セラレ度

依命通牒ス

左記

一、超重爆撃機ハ爾後特殊試験機ト稱呼ス

ルコト

二、該機ニ具備セシムヘキ性能ハ勿論設計、試 <small>際 算</small>	作ニ関スル萬般ノ處置ハ之ヲ極秘トシ關係 <small>當事者以外ニ情報ノ漏洩ヲ防止スルコト</small>	三、本機ノ設計試作ニ任スル民間航空機製造會 <small>社ニ對シテハ特ニ前各項ノ趣旨ヲ徹底セシム</small>	ルコト
---	--	--	-----

要

極秘

密第九五

參謀本部 參密第一四四號第一

超重爆撃機試作ノ爲機密保持ニ關スル件照

昭和三年二月廿三日

參謀次長 南

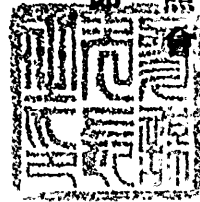
次 郎

陸軍次官 畑 英 太 郎 殿

首題ノ件ニ關シテハ特ニ左記各項ニ據リ處置セラレ度

左 記

- 一、超重爆撃機ハ爾後特殊試験機ト稱呼スルコト
- 二、該機ニ具備セシムヘキ性能ハ勿論試作ニ關スル万般ノ處置ハ之ヲ極秘トシ關係當事者以外ニ情報ノ漏洩ヲ防止スルコト



2. 24 9.

印

陸軍省 3. 3. 1. 午前 時

陸 軍

8290

決裁指定

関

大臣 委		件番受		連帶名 軍務主補統
次官		密第九五號 其二 廳名		
高級副官		陸軍航空本部		決行後回覽課名
主務副官		特種試験機研究審査		
主務官房		関スル件		3. 8. 13 50 軍事課
主計官房		密第三六號		
參事官		器密第三六號		者記筆案審
局長		受領 昭和三十八年八月八日		
主務局長		提出 大正 年 月 日		長課
主務課長		了結 大正 年 月 日		
主務課員		決行後回覽		長課
主務課員		局長		

陸密

指令

陸軍航空本部長へ

八月七日附航部發甲第一八七號申請ノ通

り認可ス

陸軍第三三回號

昭和七年八月廿四日



極秘 九五二二 六月八日

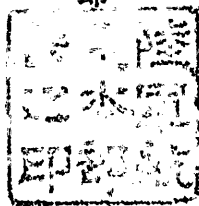
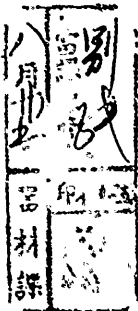
航部發甲第一八七號

特種試驗機研究並審査ニ關スル件申請

昭和三年八月七日 陸軍航空本部長 井上 幾太郎

陸軍大臣 白川 義則 殿

昭和三年二月廿一日附陸密第五三號達ニヨル首題ノ件別紙一般計畫ニ基ツキ實施致度ニツキ認可相成度



陸軍

1890

閣 決行指定 決裁指定 保存期限

大臣		局長 主務		次官		政務 次官		件名	受番 領號
局長		主務 課長		高級 副官		參與官			
局長		主務 課長		高級 副官		書記官		特種試驗機研究審査ニ関スル件	密長第九五號其三 起元廳(課)名 陸軍編製本部
局長		主務 課長		高級 副官		書記官			
局長		主務 課長		高級 副官		書記官		陸軍省 4.8.6 統制課	
局長		主務 課長		高級 副官		書記官		陸軍省 4.8.3 統制課	

政務次官 回付 決裁前後 連帶 課名 (軍) (兵) (統) (主) (統)

決行(決裁)後 回覽課名

陸密 指令

陸軍航空本部長へ

七月二十九日附航秘第五一號申請之通認

可ス

陸軍省二七四號 昭和四年八月拾參日



卷九五三

航秘第一號

特種試驗機ノ研究並審査ニ關スル件申請

昭和四年七月二十九日陸軍航空本部長渡島達鏡本

陸軍大臣宇垣一成殿

昭和三年二月二十日陸密第五三號ニ依ル首題飛行機ノ
試作費ハ特種作業實施ノ關係上既定經費ニテハ
不足ヲ生スルニ付更ニ金參拾五萬圓ヲ増額シ且同達
別紙設計並試作要領中第五項ヲ左記ノ通變更
相成度申請ス

左記

五、本件ニ要スル兵器費ハ概子左ノ年割ニ據リ航空本部

4.7.30
9時

別途合算又	但し本金額中ニハ發動機及特種装備器材ニ西々スル	経費ヲ含マス	昭和五年度	金五拾七萬五千円	昭和六年度	金五拾七萬五千円
-------	-------------------------	--------	-------	----------	-------	----------

臣
宣

5890

保存期限	永久	決裁指定	閣	決行指定
------	----	------	---	------

大臣		局長 主務		次官		政務 次官		秘書官		審判官		書記官		審察 筆記者	
局長		主務 課長		高級 副官		主務 副官		主務 課員		主務 課員		書記官		審察 筆記者	
局長		主務 課長		高級 副官		主務 副官		主務 課員		主務 課員		書記官		審察 筆記者	
局長		主務 課長		高級 副官		主務 副官		主務 課員		主務 課員		書記官		審察 筆記者	
局長		主務 課長		高級 副官		主務 副官		主務 課員		主務 課員		書記官		審察 筆記者	

政務次官 同付
 決裁前後(連帶)課名
 決行(決裁)後 同覽課名

件名 特殊試験機ニ對スル機密保持ニ関スル件

受領 番号 密 九五 其四 起元廳(課名) 参謀本部

3.17.50



陸軍省

回答

次官ヲ參謀次長ハ

昭和六年二月十九日附參密第九四號第一
照會首題ノ件ニ関シ別紙其一ノ通陸軍航空
本部長ニ通牒スルト共ニ新聞掲載禁禁方ニ就
テハ別紙其二ノ如ク處置セシメ付承知アリ度

昭和六年 三月廿六日

通牒

次官ヲ陸軍航空本部長ハ

首題ノ件ニ関シテハ昭和三年三月十五日附陸密
第八三號通牒ニ基キ嚴ニ之ヲ取締ラレアルコト

陸

軍

トハ存スルモ最近本件ニ関シニ三ノ新聞紙ニ依
リ一般ニ報道セラレタルコトアルニ鑑ミ今後製作者業
務進捗ニ伴ヒ外部ニ漏洩ノ機會モ益々増加ヲ
豫想セラルニ就テハ此際關係中當事者ニ對シ更ニ
注意ヲ倍發セラレ度依命通牒ス

追テ本件新聞紙掲載禁止方ニ就テハ別紙
通處置セシニ付申添フ

第一〇一號 昭和六年 參月廿六日

別紙其一

陸密第

第

特殊試験機ニ對スル機密保持ニ関スル件通牒

昭和六年三月 日 陸軍次官 杉山 元

陸軍航空本部長古谷 清殿

首題ノ件ニ関シテハ昭和三年三月十五日附陸密第
 八三號通牒ニ基キ嚴ニ之ヲ取締ラレアルコトハ存
 スルモ最近本件ニ関シニ三ノ新聞紙ニ依リ一般ニ報
 道セラレタルコトアルニ鑑ミ今後製作業務進捗ニ伴ヒ
 外部ニ漏洩ノ機會モ益々増加ヲ豫想セララルニ就
 テハ此際關係當事者ニ對シ更ニ注意ヲ倍甚セラレ
 度依命通牒ス

陸 軍

別紙其三

第 一 号

特殊試験機ニ對スル機密保持ニ関スル件 通牒

昭和六年三月 日

陸軍省 副官

各軍各師團參謀長、憲兵司令官宛

先般新聞紙上ニ超重爆撃機ニ関スル記事掲載セラレタルモ該重爆撃機ハ

一、特殊試験機ト稱呼シ超重爆撃機ノ名稱ヲ用

ヒス

ニ、該機ニ具備スル性能ハ勿論試作ニ関スル萬般

ノ處置ハ之ヲ極秘トス

ルコトニ定メラレアルヲ以テ爾今外部ニ漏洩セサルコト

陸軍省

陸軍省

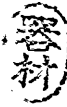
各軍師團
參謀長宛

憲兵司令
官宛

ニ最善ヲ盡スト共ニ新聞其他通信員等ニシテ之ヲ
探知セル時ハ記事ヲ掲載セサルコトニ関シ特ニ諒解
ヲ得ラレ度

尚憲兵ニ對シテハ豫メ新聞檢閲當局ニ諒解
ヲ得ル様通牒シアルニ付御含メ相成度

(新聞檢閲當局ニ對シ豫メ諒解ヲ得ルコトニ
関シテハ貴司令部及各憲兵隊ニ於テ可然配
慮煩シ度尚本文ハ各軍各師團參謀長ニモ
通牒シアルニ付爲念)



秘
密
第
九
五
號
其
他

參謀本部
參密第九四號第一

特殊試驗機試作ノ爲機密保持ニ關スル件

昭和六年二月十九日

參謀次長 二宮 治

重

陸軍次官 杉 山 元 殿



首題ノ件ニ關シテハ昭和三年二月參密第一四四號第一ヲ以テ照會致
置キタルモ最近兩回ニ亘リ本件ニ關シ新聞紙等ニ依リ一般ニ報道セ
ラレ秘密保持上遺憾ニ存シ殊ニ今後製作業務ノ進捗ニ伴ヒ外部ニ漏
洩スルノ機會益々増加ヲ豫想セラルルニ就テハ此際關係當該事者及
新聞等ニ對シ秘密保持上適宜ノ處置相成度

加藤



陸軍

0692

本件ニ關シ關係係當事者ニ對スル秘密保
持啓示方ニ執テ當諒ニ於テ處置スルモ
新聞掲載ヲ禁止スル下ニ關シテ貴諒ニテ

處理相成ク

谷村 諒

軍事諒御中

保存期限		決裁指定		決行指定	
政務次官 回付		決裁前 連帶		軍事	
受番 領略		件名		特種試験機ニ對スル機密保持ニ關スル件	
昭和三十九年三月十五日		昭和三十九年三月十五日		昭和三十九年三月十五日	
大臣		次官		政務次官	
局長		主務局長		參與官	
高級副官		主務副官		書記官	
課長		主務課長		審案	
起元應課名		新開		筆記者	
決行(決裁)後 回覧課名		6816		55	
決裁後		連		長	
局長		局長		局長	
局長		局長		局長	
局長		局長		局長	
局長		局長		局長	
局長		局長		局長	
局長		局長		局長	
局長		局長		局長	

副官ヨリ各軍各師團參謀長(陸軍上師團留守參謀)憲兵司令官)
へ通牒案

先般新聞紙上ニ超重爆撃機ニ関スル記事掲

載セラレタルモ該爆撃機ハ

一、特~~種~~試験機ト称呼シ超重爆撃機ノ名称ヲ

用ヒス

二、該機ニ具備スル性能ハ勿論試作ニ関スル万

般ノ慶置ハ之ヲ極秘トス

ルコトニ定ミテシアルヲ以テ外部ニ漏洩セサルコト

ニ最善ヲ盡スト共ニ新聞其ノ他通信員等ニ

シテ之ヲ探知セル時ハ記事ヲ掲載セサルコトニ関

陸軍師團長
謀長宛

死
憲兵司令部

シ特ニ諒解ヲ得レ度

尚憲兵ニ對シテハ軍兵司令部ニ通シ豫メ新

聞檢閲當局ニ諒解ヲ得ル様通牒シヤルニ

付御含之相成り度

新聞檢閲當局ニ對シ豫メ諒解ヲ得ルコト

ニ関シテハ貴司令部及各憲兵隊ニ於テ可

然配慮煩之度尚ホ文ハ各軍各師團參

謀長ニモ通牒シアルニ付キ為念

一〇〇 昭和六年 三月廿六日

臣 臣

<p>保存期限 永久</p>		<p>決裁指定 (決裁)</p>		<p>決行指定 閱</p>	
<p>政務次官 同付</p>		<p>決裁前 連帶</p>		<p>決行(決裁)後 同課</p>	
<p>陸軍省 領</p>		<p>陸軍省 密第九五號其五</p>		<p>起元應課名</p>	
<p>陸軍航空本部</p>		<p>陸軍航空本部</p>		<p>陸軍航空本部</p>	
<p>件名 特殊試験機審査遅延ニ關スル件</p>		<p>大臣 委</p>		<p>政務 次官</p>	
<p>主務局長</p>		<p>高級 副官</p>		<p>參與官</p>	
<p>主務課長</p>		<p>主務副官 官房御用掛</p>		<p>書記官</p>	
<p>主務課員</p>		<p>主務課員</p>		<p>審案 書記者</p>	
<p>局長</p>		<p>局長</p>		<p>局長</p>	
<p>課長</p>		<p>課長</p>		<p>課長</p>	
<p>大臣 受領</p>		<p>主務局長</p>		<p>主務課長</p>	
<p>提出</p>		<p>主務課長</p>		<p>主務課員</p>	
<p>昭和三十九年六月二十九日</p>		<p>昭和三十九年六月二十九日</p>		<p>昭和三十九年六月二十九日</p>	
<p>昭和三十九年七月八日</p>		<p>昭和三十九年七月八日</p>		<p>昭和三十九年七月八日</p>	
<p>昭和三十九年七月八日</p>		<p>昭和三十九年七月八日</p>		<p>昭和三十九年七月八日</p>	
<p>大臣 受領</p>		<p>主務局長</p>		<p>主務課長</p>	
<p>提出</p>		<p>主務課長</p>		<p>主務課員</p>	
<p>昭和三十九年六月二十九日</p>		<p>昭和三十九年六月二十九日</p>		<p>昭和三十九年六月二十九日</p>	
<p>昭和三十九年七月八日</p>		<p>昭和三十九年七月八日</p>		<p>昭和三十九年七月八日</p>	
<p>昭和三十九年七月八日</p>		<p>昭和三十九年七月八日</p>		<p>昭和三十九年七月八日</p>	

陸軍航空部

指令

陸軍航空本部長

六月二十七日附航秘第一五五號申請ノ通

認可ス

第三〇五

昭和六年七月九日



陸軍航空部

航空第一五五號

密第九五號其五

特殊試験機審査遅延ニ關スル件申請

昭和六年六月廿七日

陸軍航空本部長 古谷 清

陸軍大臣 南次郎殿

昭和三年二月廿一日附陸密第五三號ニ依リ研究審査達相成リシ首題ノ件ハ本年六月其結果ヲ覆申スヘキ豫定ノ處初メテノ試ミニテ設計試作等ニ渡多ノ改修正箇所ヲ生シ漸ク八月末製作完了シ九月上旬ヨリ審査ニ著手シ得ルノ豫定ナリ隨テ該覆申ハ昭和七年六月末迄延期相成度申請ス

陸軍省 6.6.29 36 器材課

陸軍

6690

閱
決裁指定

房官臣大	課	局務主	證認濟裁決	大臣	件番受	連帶
了結	領受	出提	領受	大臣	名	陸軍省
大正	大正	大正	大正	委	特殊試驗機ニ對スル機密保持ニ關スル件	陸軍省
年	年	年	年	次官	第九五號	第九五號
月	月	月	月	參專官		
日	日	日	日	局長	局長	局長
覽	後	決	帶	主務	主務	主務
長	回	行	長	局長	局長	局長
				課長	課長	課長
				主務	主務	主務
				課員	課員	課員
				主官	主官	主官
				副官	副官	副官
				主計	主計	主計
				者	者	者
				記	記	記
				筆	筆	筆
				案	案	案
				審	審	審

陸軍省
第九五號

應名

兵器局器材課

決行後回
覽課名

審案筆記者

通牒

次官ヲ陸軍航空本部長

第三師團參謀長ハ

首題ノ件ニ關シ三月二十六日附陸密第一〇一號

(陸密第一〇一號)ヲ以テ之カ外部漏洩ヲ新聞記事

掲載禁止等ニ就キ通牒セシ處今同飛行ヲ

實施スルコトナリタルニ就テ新聞記事等ニ掲

載セラルコトヲ絶對ニ阻止スルコト困難ナルハク

此場合ハ已ムヲ得サル儀ト存セラル尚外部ヨ

リ質問等ニ對シ答辯ヲ要スルカ如キ場合ニ

別紙ノ範圍ニ於テ應酬差支ナキニ付承知

0790



陸軍省各師團（オミタチ）
昭和六年九月拾四日
陸密第三九四號

相成度

三〇

昭和六年九月七日

備考

(丙) 第三師團行及軍需司令部行に託載せられたる度

別紙

特殊試験機

今回三菱航空機製作所ニ於テ試作ノ大型機ハ全幅四十四米全長二十三米全備重量約二十五噸ノ單葉全金屬製ニシテ發動機ハ約三千馬力乗員約十名約十時間ノ航續力ヲ有シ巡航速度毎時百七十料ノ豫定ナリ

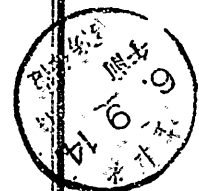
官房記

陸軍

昭和三年

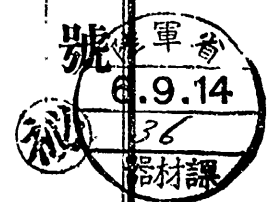
志

九五〇六六



短軍第一

號



電報譯

九月十二日午前午後

一時二十分發

副官宛 發信者 朝鮮軍副官

朝鮮三八
本年三月二十六日陸密カ一〇〇通牒該事項ト
思ハルル記事昨日(電通)ニヨリ新聞紙ニ載
テハ該通牒内容ハ多少緩和セラレタル中

陸軍

陸密部

通牒

次官ヲ陸軍航空本部長

特殊試験機ノ見學ヲ願出テタル者ニ對スル取扱

左記ノ通定メラタルニ付依命通牒ス

追テ本機ハ國防上努メテ秘密ヲ嚴守セシムル

必要アルニ付見學者ニ對スル諸元性能裝備等

ノ説明ニハ秘密保持ニ關シ特ニ注意セラレ度ヲ

念

四一五

昭和六年五月廿一日

左記

陸軍現役將校同相當官及陸軍官等文官ニ

シテ部隊長ヨリ願出テタルモノニ對シテハ業務上特ニ

陸軍

必要ト認ムル者ニ限リ審査業務ニ差支ナキ範
圍ニ於テ航空本部長詮議ノ上之ヲ許可スルコトヲ
得

其他ノ者ニアリテハ陸軍大臣ノ承認ヲ受クルモノトス

通 牒

次官ヨリ参謀次長、教育總監部 本部長

各軍師團参謀次長、東邊備司令部参謀次長

陸軍技術本部長、陸軍造兵廠長官

陸軍兵器本廠長、築城部 本部長

憲兵司令部官

陸 軍 見

目下陸軍航空本部ニ於テ審査中ナル特殊試
験機ノ見學ニ関シ別紙ノ通航航空本部長ニ通牒
セシ付承認相成度

知

四一五

昭和六年



閱 6020

次官

齋

九五

七

省 027
時 8 時
房 陸軍

第二二號

電報譯

十月廿七日 午前 午後

時 分 著

次 官 宛

發信者

福井少将

閣下、此配着ニ初メニ特種操在日無事
良好、成績ヲ以テ初初行リテ終ニ

陸軍

0120

紙信著信電軍陸

文	本	定指	人名氏	局發	局著
					二四
				至總官 六五寺 ナカ 一四	受信時分
				リクグンシカン	ワダ
				ウナムヨ	コヨ四時八分
				カツカノゴ	事記
				ハイリヨニアツ	三
				カリシトクシユキホニヒ	
				モツテハツヒコウヲオワルフクイセヨウシヨウ	
				リヨウコウノセイセキ	



11120

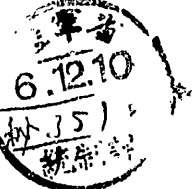
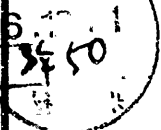
大 臣 三益		政 務 次 官 次 官		決 裁 指 定 永 久		保 存 期 限	
				決 行 指 定			
房 官 臣 大		課 局 務 主		件 名		受 番 領 號	
了 結	領 受	出 提	領 受	號 領	陸軍省 密第九五	陸軍省 密第九五	陸軍省 密第九五
昭和七年七月	昭和七年十二月	昭和年 月 日	昭和六年十二月五日				
決 行 後 回 覧 (裁決)		連 帶		政 務 次 官		陸軍省	
局長	局長	局長		參 與 官		陸軍省	
				高級 副官		陸軍省	
長 課	長 課			書 記 官		陸軍省	
				審 判 官		陸軍省	
				審 査 官		陸軍省	
				筆 記 者		陸軍省	

政務次官回付

決裁前後連帶



決行(決裁)後回覧課名



陸軍部

通牒

次官より陸軍航空部部長へ

十二月四日附航秘第二七四號上由首題ノ件

ハ實施差支ナキニ付依命通牒ス

追テ秘密保持ニ關シテハ依然既定方針ヲ嚴守

セラレ度由添フ

陸軍部 四三〇口號 昭和六年十二月拾五日



陸 軍 部

三
年
秘
密
九
五
八

航
秘
第
二
七
四
號

特殊試験機基本審査ヲ立川ニ於テ實施ノ件
意見上申

昭和六年十二月四日

陸軍航空本部長渡邊錠太郎

陸軍大臣 南 次 郎 殿

特殊試験機ノ審査ハ基本的事項ヲ各務原ニ於テシ其ノ實用試験ヲ
飛行第七聯隊ニ於テ行フ如キ當初ノ計畫ヲ以テ着々實施中ノ處同
機ニ装着セル發動機ニ改修ヲ要スル部分ヲ生シ此際依然各務原ニ
於テ審査ヲ續行セハ尙多額ノ經費ヲ要スルト各務原ニ於ケル飛行
ノ結果ニ徴スルニ立川ニ於テモ離着陸可能ト認メラル、ヲ以テ第
一次審査終了後之ヲ立川ニ移シ技術部ニ於テ爾後ノ審査ヲ繼續セ

陸軍航空本部長
印部航

12.5
6.12.3
6.12.3
6.12.3

七八〇

0714

シムルヲ有利ト認ムルニ付上申ス

図

簿

航秘第二八一號

特殊試験機審査ニ關スル件報告

昭和七年六月二十二日

陸軍航空本部長 渡邊 錠太郎

陸軍大臣 荒木 貞夫 殿

昭和三年二月二十一日陸密第五三號達ニ基キ試作研究セル特殊試験機ハ審査ノ結果概ネ所望ノ性能ヲ具備シ遠距離ニ行動スヘキ重爆撃機トシテ採用シ得ルモノト認ムルニ付報告ス（別冊審査報告添付）

陸軍省
航空部
7月10日

陸軍省
7.10.29
軍事課

7.3.25
航空部

陸軍省
7.7.15
統制課

陸軍省
7.6.22
航空部

7.9.19
兵務課

陸軍省
7.7.15
銃砲課

陸軍省
航空部
7.7.15

陸軍

9140

昭和八年九月四日航空本部

秘

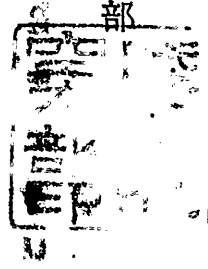
航秘第四四六號

特殊試験機審査報告中訂正相成度件

昭和八年九月一日 陸軍航空本部

陸軍省 御 中

本年七月二十四日航秘第三六二號ヲ以テ上申セル首題報告中特殊試験機各種爆彈搭載可能員數及重量表ヲ別紙ト差換相成度追而差換ノ上ハ不要ノ分燒却セラレ度



陸

軍

2120

本件印刷(廻)紙抄第三〇二号別
冊ノ保管已分ニテリ為取理セラレ候

古房記録士

巻材俾